

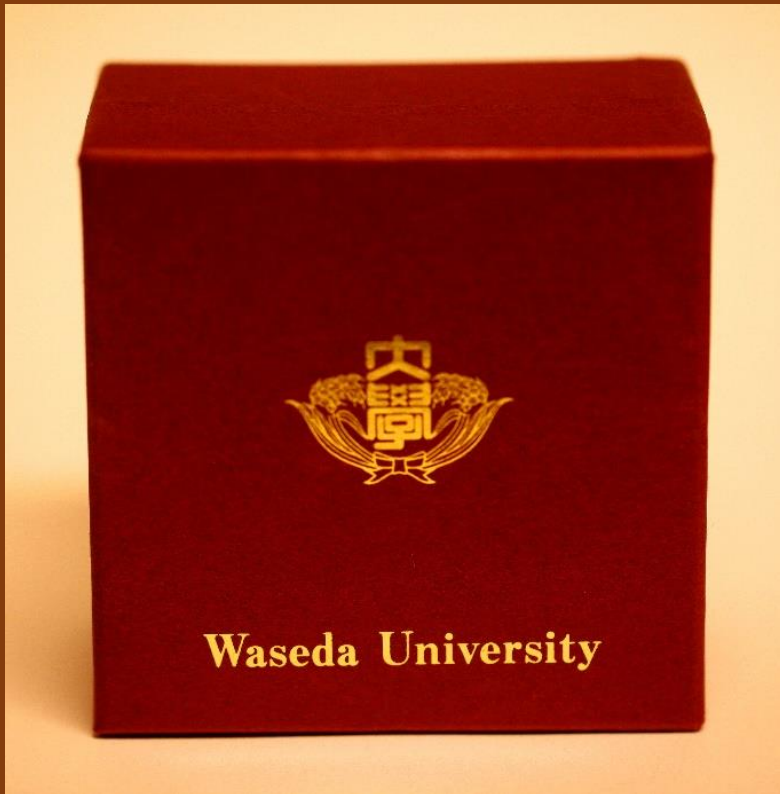
早稲田大学出身者には
なぜ有名人が非常に多いのか？



早稲田大学のスクールカラー

1905(明治38)年に安部磯雄を団長とする早稲田大学野球部が、日本初の海外遠征で米国へ行った。その際、新調されたユニフォームは、薄い小豆色の地にえび茶色で「WASEDA」と浮き出させたものであった。このユニフォームの文字の色になったえび茶色は、早大チームをコーチしたといわれるメリーフィールド氏の母校、シカゴ大学の校色からとったものであったという。この時に、早稲田とえび茶色の結びつきが始まったそうです。

早稲田大学の校章は、『大学』の2文字の左右に稲葉があしらってあります。その稲穂の粒が左右ともに19個です。何で19個なのかは、1882年創立で、1882の各数字を足すと19だからとか。



右の切子杯の収納箱



校章にちなんだ19粒の稲穂をカットした切子杯
(早稲田大学オフィシャルグッズ)

ずっと以前から、思い続けていることですが、どの分野においても有名人・ユニークな人には早稲田大学出身者が非常に多くて社会で大活躍をしておられるのはなぜだろうかという疑問が未だに解けません。大都会(東京)にあるマンモス私学であることに加えて、何か特別のファクター(学風?)があるのでしょうか、それが何かよくわかりません。

身内にいる早稲田大学出身の社長に『早稲田大学出身者には、なぜこんなに凄い人・有名人・話題の人などが多いのか?』と聞いてみましたが、その返事は『学生数が非常に多いので、必然的に有名人も多いのではないか。ごく普通の者も、それ以上にたくさんいるよ!』と

そっけない返事で、結局その理由は、卒業生の社長に聞いてもよくわかりません。そして、平成28年8月3日認証式の今回の『第3次安倍再改造内閣』の名簿が発表されて、ますますその思いが強くなりました。すなわち全閣僚20人の出身大学を見てみますと、1位が東大で7人、2位が早稲田大で5人、3位が慶応大で2人、以下は1人ずつとなっています。なんと全閣僚の1/4が早稲田大出身者で占められています。この高割合も凄いことです。その早稲田大学出身の今回の全閣僚は次の方々です：岸田文雄(外務)・松野博一(文部科学)・山本有二(農林水産)・世耕弘成(経済産業)・稻田朋美(防衛)。

どこの大学でも同様ですが、たとえ非常に難関の入試を、がり勉で突破して一流大学へ入学し、良い成績を収めたとしても、社会へ出てから鳴かず飛ばずで、何の役にも立っていないのではダメなんです。いつもうちの学生諸君に言っていますが、社会へ出たら、人のため世のためになることをたくさんしなければいけません。how many peopleにhow much good effectsを与えるかで、その人の存在意義が決まります。どんな分野でも構いません。たとえば音楽が得意であれば、音楽で大勢の人に感動を与え、喜んでもらい幸せな気分にして満足してもらえば、それでいいのです(例：永 六輔など)。フィギュアスケート

で素晴らしい演技をして感動を与える(例：荒川静香)、コメディで皆さんを喜ばす(例：タモリなど)、などなど、やることは無数にいくらでもあります。とにかく色々な分野で活躍している有名人、ユニークな人に早稲田大学出身者が非常に多いのはなぜなのでしょう。すでに現役の学生の中にもスポーツで有名な人がいます。まさか大学の講義で、有名人になる方法を教えているとは思えませんが。『〇〇大学出身の有名人』のようなデータベースを比較したところ、その人数は早稲田大学は非常に多いようです。

興味深いことに、早稲田大学出身の超有名人の中には中退者も含

まれており、それが意外にかなり多いのです。そこで『有名人になりたければ早稲田大学へ入学して中退し、芸能界などへ入ることだ！』なんて冗談が言えます。『卒業三流、留年二流、中退一流』なんていう面白い言葉が早稲田大にはあるそうです。

いずれにしろ、とにかく早稲田大学は、色々な分野で凄いです。同窓の人脈・コネで、ますます発展するというプラスのスパイラルが強力に回っているようです。慣性でその回転は今後も止まらないでしょうし、自然と有名人が次々と出てくるのです。大学人として羨ましい限りです。

『早稲田大学出身者の有名人』のファイルの中から、誰でも知ってい

るであろう超有名人・超話題の人を独断と偏見で、ごく一部のみを抜き出したリストを後に示します。候補者が多過ぎて選抜は大変でした。よく知っている一流の大会社の社長などになっている人も非常に多数(トップクラス)おられますが、一般の人には馴染みの少ない名前でしょうから省略しました。以下は、あくまで一般の人に知名度の非常に高い人の名前のリストです。これらの人は、大学の素晴らしい広告塔になり、今後ますますの少子化で入試の競争率が1を割り、定員割れを起こす大学・学部が続出すると思われるのですが、それを防ぐ効果もあり、その他にも、コネや人脈で何かと有利になりますので、素晴らしいこと

です。社会へ出て大きなことをしようとする、コネや人脈がいかに重要であるかが痛いほど思い知らされます。持つべきは良き友です。

『東の早稲田大・西の近大』は、話題性や知名度では特別の大学です。大学経営が非常にうまいと思います。もっとも、私学だからできた部分もあるでしょうが。近大の理事長は、現在の経済産業大臣です。

今や大学は象牙の塔ではなく、一般人が聞いて何の役に立つのか全く不明の、しかし本人は凄い研究だと思っている研究を趣味的に、ただマンネリで続けているだけではダメな時代になりました。社会との連携や社会への還元が重要です。社会のNeedsに応えることです。

近大の農学部長の先生をととてもよく知っており、学会や役員会でよく会っていて近大の話も聞いておりますし、学長さんまでも知っていて、色々な話を聞きました。大学運営は非常に順調で、オープンキャンパスや受験にも多く来過ぎて困るほどだそうで、羨ましい限りです。今は時期的に、『ウナギ味の養殖ナマズ』が話題です。近大なら当然やると思われるウナギの養殖に、なぜトライしないのかの裏話も教えてもらいました。どの世界にも色々複雑な事情があるんですねー。

次ページ以降に早稲田大学出身者で、特に話題性の大きい人、有名人、とてもユニークな人の名前を独自に選出して示します。この中

には故人も含まれています。私独自の基準でリストアップしましたので、選出に問題があるかも知れません。たとえばスポーツ選手などは私はあまりよく知りませんので、ほとんどリストアップされておられません。なので選出に偏りがあるのは確実です。お許してください。とにかく早稲田大学出身者には、政財界や芸能界をはじめ、色々な領域に超有名人がたくさんおられます。特に芸能界には、ユニークで目立つ人が多いような気がします。皆さんの出身大学の卒業生は、いかがですか？

早稲田大学出身の超有名人の例 (順不同)

浅沼 稻次郎・石橋湛山・河野洋平・小渕優子・岸田文雄・額賀 福志郎・
稲田朋美・世耕弘成 (前出 現 経済産業大臣・近畿大学理事長)・小渕恵三・
海部俊樹・竹下 登・田中 眞紀子・福田康夫・森 喜朗・野田佳彦・
辻元清美・丸山和也・渡辺喜美・橋下 徹・東国原 英夫・堤 義明・
井深 大・柳井 正・西 和彦・大前研一・青島幸男・石川達三・五木寛之・
井伏鱒二・江戸川 乱歩・立松和平・北原白秋・西條八十・野口雨情・
吉井 勇・若山牧水・寺山修司・海老沢 勝二・姜 尚中・大藪春彦・栗本 薫
尾崎一雄・丹羽文雄・野坂昭如・火野葦平・正宗白鳥・村上春樹・
横光利一・窪田空穂・俵 万智・土岐善麿・日夏 耿之介・三木露風・

【次ページへ続く】

今村昌平・和田 勉・秋吉久美子・宇津井 健・風間杜夫・加藤 剛・
北大路 欣也・佐藤B作・中村 吉右衛門・広末涼子・藤村俊二・森繁久弥・
松本 幸四郎・吉永 小百合・渡瀬恒彦・城 達也・石田純一・永 六輔・
大橋巨泉・小田和正・久米 宏・小島よしお・小室哲哉 (年収約97億円で芸能
人で日本一。他の人たちも数十億円が多く、有名人はやはり収入も凄い!)・中村八大・
東海林 太郎・ドリアン助川・サンプラザ中野くん・庄野真代・タモリ・
ボニージャックス・会津八一・ラサール石井・やくみつる・秋山 庄太郎・
假屋崎 省吾・浅井慎平・福原 愛・斎藤佑樹・織田幹雄・瀬古利彦・
荒川静香・逸見政孝・鈴木史朗・松平定知・江川紹子・田原 総一郎・
筑紫哲也・羽生結弦・井上純一・小沢昭一・大和田 伸也・

【次ページへ続く】

北村和夫・堺 雅人・佐田啓二・菅原文太・高瀬春奈・坪内 ミキ子・
寺田 農・上田晋也・岡村喬生・五郎丸 歩・箕輪 はるか・岡田武史・
釜本邦茂 その他非常に多数

以上のように、早稲田大学出身者には、とても個性的でユニークな超有名人が多いようです。

早稲田大学出身の文化勲章受章者

- ★鈴木 大拙 - 哲学者、仏教学者
- ★津田 左右吉 - 早稲田大学教授、日本学士院会員、日本史学
- ★井伏 鱒二 - 小説家、直木賞受賞
- ★尾崎 一雄 - 小説家、芥川賞受賞
- ★丹羽 文雄 - 作家
- ★正宗 白鳥 - 小説家
- ★森繁 久弥 - 国民栄誉賞

早稲田大学出身の文化功労者

- ★河竹 繁俊 - 早稲田大学教授、日本芸術院会員、演劇研究
- ★河竹 登志夫 - 演劇学、早稲田大学名誉教授
- ★本田 安次 - 早稲田大学名誉教授、民俗学
- ★高橋 亀吉 - 経済評論家、経済史研究者 (この表を見る限りでは断然文系に強い大学ですね)

日本の全上場企業(3550社)の会社のトップ(会社の代表者1名)の数の出身大学ランキングの上位10大学を次に示します。これは2012年の調査結果です。学生総数との比率で比較しないと本当のランキングにならないかと思い、ここに示した大学のみですが、学生数を考慮した社長数での順位を()内に示しますが、全大学を対象にすると()内の順位は多少変わります。

1位 慶応大 313名 (3位)

2位 早稲田大 231名 (5位)

3位 東京大 201名 (1位)

4位 日本大 96名 (10位)

5位 京都大 88名 (4位)

6位 中央大 70名 (7位)

7位 明治大 65名 (8位)

8位 大阪大 63名 (6位)

9位 一橋大 53名 (2位)

10位 同志社大 51名 (9位)

各大学の在籍学部学生総数(2015年5月1日時点)トップ20を示します。

- 1位: 日本大学 (66,956人)
- 2位: 早稲田大学 (42,783)
- 3位: 立命館大学 (32,301)
- 4位: 近畿大学 (31,586)
- 5位: 明治大学 (30,426)
- 6位: 東洋大学 (29,100)
- 7位: 東海大学 (29,008)
- 8位: 慶應義塾大学 (28,855)
- 9位: 関西大学 (28,642)
- 10位: 法政大学 (27,109)
- 11位: 同志社大学 (26,733)
- 12位: 中央大学 (25,080)
- 13位: 関西学院大学 (23,122)
- 14位: 帝京大学 (23,076)
- 15位: 福岡大学 (19,611)
- 16位: 立教大学 (19,481)
- 17位: 龍谷大学 (19,078)
- 18位: 専修大学 (19,032)
- 19位: 神奈川大学 (18,088)
- 20位: 青山学院大学 (17,618)

やはり上位は都会の私学ばかりで、国立大学の数倍から10倍くらいの数になっています。

なので、色々なランキングでは、この学生数の大差を考慮する必要があるかと思います。たとえば前ページの()内に示す順位のように。

学生総数が10倍多ければ有名人が10倍いても当然ですから。

ちなみに、東京大学と京都大学は

25位: 東京大学 (13,960)

26位: 京都大学 (13,416)

この原稿を書いている今は、ちょうどリオ・オリンピックの真っ最中で、各国のメダル獲得数のランキング表が新聞などに毎日更新して掲載されておりますが、上記の大学の各ランキングと同様のことが言えます。すなわち各大学で何人かという比較も各国でメダルが何個かという比較も母数が大きく異なるために、単にそれらの数値の比較をするだけには問題があります。すなわち、各国の人口は非常に大きな差があり、8月12日朝現在の金メダルを優先する上位10位までの国だけの通常のランキングは、順にアメリカ、中国、日本、オーストラリア、韓国、ハンガリー、ロシア、イギリス、ドイツ、イタリアとなっています。この中で人口が最多の国は中国で137500万人もいて、他のどの国よりも桁違いに特別多く、たとえばアメリカの4.3倍、日本の10.8倍にもなります。最少はオーストラリアの

900万人であり、この両国は人口比ではなんと約153倍もの差がありますので、人口比で単純に考えれば、中国はオーストラリアの153倍の2142個のメダルを獲得していてもよいはずですが、金・銀・銅の合計数では、中国は26個、オーストラリアは14個ですので、わずか1.9倍の差しかなく、総人口を考慮すると、中国のメダル獲得数は極端に少な過ぎであり、逆にオーストラリアは非常に素晴らしいことになります。ちなみに各国の人口に極端な差がありますので、それを補正する意味で、単位人口当たりのメダル獲得数で比較すれば、なんと日本は中国の約8倍も多く獲得していることになるのです。しかし、オーストラリアと比較すると約1/10のメダル獲得効率です。オリンピックは国別の対抗競技とはいえ、各国の人口に極端な差がありますので問題があり、特に小国は不利となります。

その時点のメダル獲得数で20位のスロベニアは、人口が約200万人と極端に少ないにも関わらず、金・銀・銅を各1個獲得しており、獲得効率はなんと1.5にもなり、この値は最高で、もの凄いものです。中国はスロベニアの約688倍の人口ですので、人口比で考えれば、中国のメダル獲得数は、なんと2064個獲得していてもおかしくないのですが。以上をわかりやすく表にまとめて次ページに示します。なお、この表は筆者自作のもので、特にその『**獲得効率**』は独自のものです。大学の各種ランキングでも、東京などの私立マンモス大学の在学学生数は、地方国立大学の10倍もあり、何かのランキングで10倍の差があっても当然かと思えます。しかしこれは地方国立大学のひがみかも？ あくまで大学間の比較であって、学生数を考慮しないのが通常のでやり方ですから仕方ありません。

リオ・オリンピックでの各国のメダル獲得数 と人口を考慮した獲得効率 (2016年8月12日8時40分現在)

順位	国名	金	銀	銅	合計	人口	獲得効率
1	アメリカ	13	12	10	35	322	0.1087
2	中国	10	7	9	26	1375	0.0189
3	日本	6	1	12	19	127	0.1496
4	オーストラリア	5	3	6	14	9	0.6429
5	韓国	5	2	4	11	51	0.2157
6	ハンガリー	5	1	1	7	10	0.7
7	ロシア	4	7	6	17	146	0.1164
8	イギリス	4	5	6	15	65	0.2308
9	ドイツ	4	3	1	8	82	0.0976
10	イタリア	3	6	3	12	61	0.1967

【注】 人口の単位は100万人で、効率とは獲得合計メダル数を人口（100万人単位）で割った値で、これが大きいほど効率がよいことになる。この獲得効率の数値を比較すると、中国は人口が非常に多いので特別に悪く、たとえば日本の約1/8で、逆にオーストラリアやハンガリーは非常に良くて、中国の37倍も良いとなる。

東京大学は官僚養成大学で、京都大学は理系研究者養成大学のような傾向があると、ずっと以前から言われています。次ページに示すように、理系のノーベル賞受賞者数では京都大学が日本一ということにもそれが表れているかと思えます。ちなみに1949年に日本人として初めてノーベル賞を受賞し、敗戦直後の暗い日本を元気付けた湯川秀樹博士は、京都帝国大学(現在の京都大学)の出身であり、同大学の教授などもしていました。

東京の私立大学は、マンモス大学が多く、文系に強い傾向があると言われています。そのような大学の学生から先日聞いたところ、文系の1つの講義で千人くらいの受講生がいる講義がいくつもあるそうです。こんなに多数の受講生の講義は、地方の国立大学ではとても考えられません。余計なお世話でしょうが、千人もの受講生がいると、

教室の割り振りも出欠のチェックも試験の採点も大変でしょう。それに反して、国立大学の専門科目の講義ですと、1クラスの受講生数は数十人くらいが標準です。私が担当しているのは教養科目ですので百数十人も受講していますが。さらに非常勤で私立大学の2大学でも講義をしていますが、受講生数は約300人と120人くらいです。これくらいの数でも採点などが本当に大変です。マンモス大学ですと実に多彩な学生がおり、有名人やユニークな人も多く輩出するのは自然かと思えます。学生数が多いと色々と有利になることも事実でしょうが、やはりマンパワーで大学の総合力のアップにつながることでしょう。今や少子化で大勢の優秀な学生を集めるのが大変ですので、知名度の大きな大学、有名人がたくさん出ているような大学はととても有利であり、今後の厳しい少子化などの時代も生き延びられることでしょう。

理系ですと、本格的な研究者や大学の先生になるには、大学院の博士課程を修了していることが必須条件です。最短でも27歳まで院生です。それでも大きな会社ですと、最後は研究所長になる程度です。ところが、大きな会社の社長は、有名大学の文系(法学部や経済学部)の学部を卒業したのみの方が大半です。社長に大学院修了の資格は必要ありません。学部卒の場合、最短で22歳で卒業です。この5年の差は大きいです。

これ以降の内容は、早稲田大学と直接の関係はありませんが、早稲田大学に今後の期待を込める意味もあり、参考までに掲載します。

日本のノーベル賞受賞者数と出身大学(学部)一覧

(2015年受賞までの集計結果)

★理系のノーベル賞受賞者数

京都大学 6人

東京大学 4人

名古屋大学 3人←注目です

北大・東北大・埼玉大・東京工業大・山梨大・

神戸大(iPS細胞の山中 伸弥先生の出身大学)・徳島大・

長崎大 各1人

★文系のノーベル賞受賞者数

東京大学 3人

残念ながら、早稲田大学は、未だここに入っておりません。ぜひ受賞してください。

山梨大学出身で2015年のノーベル生理学・医学賞を受賞した北里大学特別栄誉教授の大村 智先生の『線虫の寄生によって引き起こされる感染症に対する新たな治療法に関する発見』の研究は、例年の物理学賞とは異なり、一般の人にもわかりやすい研究内容であり、その実際の効果、影響力などにおいて超偉大で、ペニシリンを発見したフレミングと似ています。フレミングも、現在までにいかに多くの人の感染症から命を救ったかを考えると、もの凄いことです。このような成果は、理系の研究の一つの最終目標の素晴らしい実例と言えるでしょう。

以下に北里大学のホームページで紹介されている大村先生の研究成果の凄さを紹介します。

抗感染症薬の発見による国際貢献

北里生命科学研究所初代所長・北里大学 特別栄誉教授:大村智博士は、微生物が創る化合物を400種余り発見し、その中の17種がヒトや動物用の医薬品として、また生命現象を解明する生化学研究用の重要な薬として実用化されています。

フィラリアなど線虫類用抗生物質を作り出す放線菌を、静岡県川奈の土壌から分離し、この物質を改良したものがイベルメクチンであり、犬や猫だけでなく家畜なども含めた動物向け駆虫薬として、またヒトの疥癬の薬として世界中で使われています。

また、イベルメクチンは、患者の2割が失明するといわれる熱帯病のオンコセ

ルカ症の特効薬として使われており、北里研究所と米国の製薬会社メルク社の無償提供により、WHOを通じアフリカや中南米の患者の治療、および感染防止に使用されています。

現在のところ、本剤に耐性をもった線虫は発見されていないため、これら地域で劇的な予防・治療効果を挙げています。本剤は年間に7,000万人以上の人に投与され、感染（失明）の危険性が高い開発途上国における河川流域の発展に貢献しています。

この成果を基に、WHOは本剤を用いて平成22(2010)年までにオンコセルカ症を根絶する、という目標を立てています。

終り